1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。
 ○よく考え進んで行動する子 ○思いやりのある子 ○からだをきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切に作る学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考え進んで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心を持ち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○児童理解に努め、児童と正面から向き合える教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

《学校の現状》

- コロナ禍で学校生活が制限される中、学習面でも生活面でもできることを精一杯している。元気よく大きな声で挨拶することは制限されているが、黙礼や小さな声での挨拶などしっかりできていく児童が多い。学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつあり、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。30名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。
- 4月に実施された区学力調査では、通過率が国語で80.9%、算数で86.0%であった。(目標値は暫定)

《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着

学校生活が制限される中、放課後の「平野スキルアップタイム」や補習教室によって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童には、そだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては夏休み、冬休み、春休みに補充教室を実施してきた。児童全体の基礎基本の定着度の底上げができてきた。通過率も向上し区の平均を上回った。理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。また、全児童に貸与されたタブレット端末を学びの道具として、より個に応じた主体的な学習に取り組めるよう有効活用していくとともに、情報モラルについても併せて指導をしていく。

○心の教育の充実

年間を通してコロナ禍での挨拶について指導してきた結果、黙礼や小さな声での朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。保護者の学校評価では、「子供は明るく元気に学校生活を送っている」の肯定的評価が94%であるが、年3回調査しているいじめアンケートでは「いやなことを言われる」「無視される」などの記述も見られる。早期発見・早期解決に努めているが、油断せず見守るとともに道德の授業を充実させ、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を重点にして指導していく。

- ・教員一人一人が足立スタンダードによる授業実践を通し、授業改善・指導方法の工夫に努めた。4月に実施された区学力調査では、通過率が86.5%であった。放課後「平野スキルアップタイム」を継続し、学力調査の結果をもとに学力向上委員会が中心になって計画を立て、各クラスで放課後の補習をしたり、担当教員による補充教室を実施したりするなどして、さらなる学力の向上に向けて取り組んできた。
- ・小中連携については、教員の交流について制限を設けた上で研究授業を3回実施し、教員の指導力の向上を図った。今年度も、ペアを組む小中3校で年度当初に立てた計画に基づいて実施する予定である。
- ・タブレット端末が全員に配備された。教育活動の中でどのように活用していくか計画を立て実践していく。
- ・毎日課題を出し、家庭学習は定着した児童が多いが、さらに自主的に家庭学習ができる児童を増やしていく。
- ・子供たちの総年間読書冊数は、2月末現在80293冊で子供一人平均150冊である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携を図る	○	○	○	○	○
4						

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎学力の定着、思考力・表現力の向上		年度当初－87% 1月－95% 2月現学年－75%	年度当初－国語 81.3%算数 86% 1月－国語 94.3%算数 91.2% 2月現学年－未実施		概ね基礎学力の定着を図ることができた。下位層の更なる底上げを引き続き行う。			○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

	内 容	実施期間（年度） R:令和						
		R1	R2	R3	R4	R5		
1 継続	スキルアップタイム 全児童 国語 算数	毎日 （B時 程・土曜 授業日 等除く）	担任が、AIドリル、次へのステップ、東京ベーシックドリル、漢字・計算プリント等を活用して、漢字・計算の基礎を身に付けさせ、学力を定着させ、弱点を克服する。	全校で共通したワークテストを活用し成績ファイルで確認する。	国語と算数のワークテストの平均点85点以上 2月の現学年調査は目標値の通過率75%	共通ワークテスト （国・算）平均点 国語 82.6 算数 81.6 2月現学年調査 未実施	放課後の20分間を使って全児童対象にAIドリルや漢字・計算プリントを用いて既習内容の確認を行うとともに基礎基本を定着させるように努めた。	○
2 継続	放課後補充教室 全学年 目標値に達していない児童 国語 算数	毎日 （月別に学年を指定）	専科、学習支援ボランティアが漢字・計算プリント等を活用して、つまずきをさかのぼり、少人数指導を行う。反復して学習させることで基礎学力の定着を図る。	学力調査の再調査（全児童） 9・1月実施・現学年調査 2月実施	学力調査の再調査通過率95% 2月現学年調査通過率75%	9月再調査通過率 国語—91.3% 算数—89.8% 1月再調査通過率 国語—94.3% 算数—91.2% 2月現学年調査 未実施	月毎に対象学年の児童を決めて、前学年の既習内容も含め復習を中心にした学習ができるようにした。	○
3 継続	長期休業期間中の補充教室 全学年 （春季は1～5年） 国語 算数	夏休み 13日 （1・2年は8日間） 冬休み 2日間 春休み 3日間	全教員と学習支援ボランティアがAIドリル、漢字・計算プリント、学力調査過去問題・類似問題、東京ベーシックドリル、次へのステップ等を活用して、学力調査で目標値に達しなかった児童や担任が気になる児童を中心に問題を解き直したり、補充問題に取り組んだりすることで、基礎学力の定着を図る。	学力調査の再調査（全児童対象） 9・1月実施	学力調査の再調査は目標値の通過率95%	9月再調査通過率 国語—91.3% 算数—89.8% 1月再調査通過率 国語—94.3% 算数—91.2%	新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら、夏休みはサマースクールを含め10日、冬休みは補充教室を3日実施した。春休みは2日実施予定。	○

4 継続	「学年別家庭での自主学習」の発行	全児童 全教職員 に発行	4月に 配布	保護者会資料として配布し、家庭にも学力向上への取り組みに理解をしていただく。全校で毎日、漢字、算数、音読の宿題を出すように共通理解し、未提出の児童は、その日の内に放課後等の時間を使って終わらせる。	宿題提出簿 家庭生活調べ	宿題提出率 100%	家庭学習の達成率 12月末までに全校 で84%	毎月生活調査アンケートを実施し、結果を学年便りで公表した。家庭により協力体制に差があるのが現状。	△
5 継続	百人一首旬間	国語 全児童	7月 11月	小倉百人一首、五色百人一首を使用し日本の伝統文化である百人一首に親しみ、古語の響きの良さに気付かせる。	百人一首暗唱 カード	各学年で20首 ずつ覚える。	20首以上暗記人数 7月—113名 12月—152名	7月よりも12月の取組で達成者が増えた。	○
6 継続	読書活動の 推進	国語 全児童	読書記録は年間を通じて取り組む。火・水・木曜日の朝読書 読書旬間—6月 読書月間—10月	毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。 ・朝読書(週30分×35週=1050分) ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介 ・教師による読み聞かせと本の紹介 ・読書旬間—低学年20冊、高学年500ページ ・読書月間—低学年40冊、高学年1000ページ ・年間読書冊数の目標を各学年ごとに設定する。	読書記録で確認する。 読書旬間・月間の目標達成者は校長室に報告に来る。	全校児童で年間の読書冊数 80,000冊 年間個人読書冊数 1年—250冊 2年—210冊 3年—130冊 4年—100冊 5年—80冊 6年—70冊 4組—130冊 6割達成	読書旬間(6月) 読書月間(10月) 等年間を通して計画通りに実施できた。教師による読み聞かせと本の紹介を読書月間に2回行った。1月より図書室を開放し、休み時間に図書室での読書を可とした。 12月末時点読書冊数 55099冊	朝読書、読書旬間、読書月間の取組を通して読書活動を推奨してきた。来年度も読書活動を推進していく。	○

7 継続	俳句コンクール	国語 全児童	6月 10月	身近な生活の中で感じたこと や自然現象などを、短い言葉 で表現することにより、物事 を見つめる目を養い、豊かな 感性を養う。 ・俳句コンクール（6月・10 月）・校長室前に投句箱を設 置し年間を通して校長俳句 会を実施。 ・外部の俳句大会にも応募	各学級の廊下 で俳句作品展 優秀作品の紹 介。	5・7・5のリ ズムで季語を用 いた俳句を全員 が作る。	計画通りに6月・10 月に校内俳句コンク ールを実施。各学級 の廊下に掲示。	各学年代表作品を学 校ホームページに掲 載して紹介した。 各種俳句コンクール に応募し、飲料水の パッケージに佳作と して本校児童の作品 が掲載されるなどし た。	◎
8 継続	授業力・指 導力の向上	全教科 全教職員	年間を 通じて	・年間8回の小中連携 ・全教職員による教科別分 科会と授業研究を実施 ・区や都の研修会への参加、 のべ100回以上 ・タブレット端末、ICTを 活用した授業をする。	研究会参加。 区や都の分掌 に関わる命令 研修以外に研 修へ参加。	全体会2回、 授業研究6回 一人4回以上研 修会に参加。 担任全員が毎日 ICTを活用。	・指導案検討を含む 分科会3回 授業研究3回実施 ・区小研各部への 参加率90% ・区や都主催の研修 会参加のべ90回	新型コロナウイルス 感染拡大防止策を講 じながら小中連携を 計画通り実施した。 各担任が各教科で計 画的にタブレット端 末を学習活動に取り 入れた。	○

9 継 続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	足立スタンダードに基づいた授業を展開する。 ・系統立てて学年別にノートを選定し、低学年は、マス黒板を使って指導する。 ・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。 ・漢字の速習（2～6年生は12月まで、1年生は1月までに当該学年で学習する漢字の指導を終える。）	管理職、教科指導専門員による授業観察。 ワークテストの経年比較データの活用。	全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。	毎時間、問題解決型の授業展開を意識して学習指導を実践した。 国語・算数のワークテストを全校で統一させ、経年比較できるように計画通りに実施できた。 漢字の速習は学年によって新出漢字	・毎時間「めあて」を提示し授業の終末に「まとめ」を行う問題解決型の学習を展開できた。学習感想を書かせる取組も見られた。 ・漢字を12月までに学習し、1月以降は習熟するための取組を行った。	○

重点的な取組事項－2		豊かな人間性を育成する				
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
	様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する	学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている95%以上の肯定的評価	肯定的評価が94.1%	概ね達成と捉えられるが、「わからない」「そう思わない」と回答した残り5.9%の評価を改善し肯定的評価に結びつける手立てを行う。	○	
B 目標実現に向けた取組み						
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	

縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班遊び年18回 ・縦割り班給食年2回 ・縦割り班集会年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し土曜授業日の中休みを30分間にして縦割り班遊びを十分とる。 ・給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。 	校内における新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、9月の土曜授業日から縦割り班活動を再開した。	<p>黙食が基本の中で飲食を伴う縦割り班給食は実施せず。集会も密になる危険があるがあるため実施せず。</p> <p>次年度もできる活動から内容と方法を再考しつつ感染拡大に留意しながら活動を充実させていく。</p>	△
幼稚園、保育園、中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・園児・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の見学、給食体験、1年生との交流や保育体験をする。 ・学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。 ・中学校での一日体験をする。 ・百人一首大会前に、中学生との合同練習をする。 ・吹奏楽の合同練習・発表会をする。 ・長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。 	<p>〈幼保連携〉 新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限がある中で、音楽会のリハーサルへの招待、昔の遊び道具を使った昔遊びでの幼稚園児保育園児との交流を行った。</p> <p>〈小中連携〉 9月に6年生が中学校での体験授業および部活動体験を実施した。10月は、中学生3名を職場体験で3週間にわたり受け入れた。</p>	<p>制限がある中でも幼稚園や保育園、中学校と綿密な打ち合わせをしながら、実施可能な方法を探り、連携の内容と実施時期を柔軟に変更しながら進めた。</p> <p>次年度も感染状況を踏まえながら、今年度の実績を参考にして可能な限り連携を行っていく。</p>	○

<p>道徳の授業の充実と挨拶運動等の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実 ・学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている90% ・オリンピック・パラリンピック教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。 ・朝と帰りだけでなく日中の挨拶について強化する。 ・年間計画に基づく確実な実施をする。 	<p>道徳やオリンピック・パラリンピック教育について年間指導計画に沿って実施できた。道徳の授業では全学級でいじめ防止のための授業を実施した。</p> <p>「あいさつ」はマスク着用の上で声を出してのあいさつを励行してきたが、昨年までの黙礼の習慣が身に付いている。</p>	<p>次年度も学校教育目標の一つ「思いやりのある子」の育成のため、親切・友情・生命尊重を重点に道徳教育を進める。いじめ防止のための授業も全学級で行う。「あいさつ」は開かれ運営委員など来校者から校内でよく挨拶をしてくれる」という評価をいただいた。次年度以降も「あいさつ」を重点取組の一つとしてさらに強化していく。</p>	<p>○</p>
--------------------------	--	--	---	---	----------

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携を図る			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。	保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均95%	肯定的評価が94.1%	コロナ禍の中でも感染防止対策を施し学校公開を再開したり、学校行事の参観を可能にした。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	・保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均95%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校HP・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 ・生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。 	<p>「学校の様子が学校便りなどでわかるように伝えられている」の項目で92.2%の肯定的評価をいただいた。</p> <p>・基本的な生活習慣の定着には家庭の協力が不可欠であると考え。今後も学年便りを通じて「生活調べアンケート」の結果を掲載し啓発を続けていく。</p>	肯定的評価の裏には約8%の「わからない」と回答した保護者がいる。今後も学校ホームページを含め学校の情報を発信していく。	○

環境教育の推進	・エコキャップ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。回収量150kg。 ・給食の残滓率2.2%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内3カ所にエコキャップ回収ボックスを設置し、学年だよりを通してエコキャップの回収の呼びかけを推進した。回収量2月末時点106kg 給食残滓率2月末時点2.6% 	地域の方々にも趣旨に賛同していただきエコキャップの回収に協力いただけた。給食は引き続き残滓率が下がるよう指導していく。	○
開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜授業日には、パソコン学習のボランティアとして参加要請する。 ・土曜事業として着付け教室、そろばん教室、理科教室、スポーツ教室等を計画実施する。 	<p>昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったが、今年度は感染状況を見ながら開かれた学校づくり協議会による授業診断を4回実施した。授業診断後に毎回段階で評価をしていただいたが、毎回高評価をいただくことができた。</p> <p>土曜事業として、漢字検定の補助家庭教育事業として「家庭教育講演会」、農業体験事業として稲作体験、千寿ネギ、サツマイモ等の苗植えから収穫までを行った。</p>	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できる内容に限りがあったが、運営委員会で検討しながら可能な限りの事業を実施することができた。今後も更に実施できる内容に幅を広げ充実させていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

コロナ禍にあっても子どもたちの学力向上が大切であるという共通認識の上にたち、学力向上委員会を中心となって区の学力調査の結果を分析して指導に役立てたり、AIドリル（キュビナ）を活用した学習の活用、放課後スキルアップタイムの実施、算数補充教室の実施などを通して学力の向上に向けて取り組んできた。また、小中連携による研究や校外での研修、5年目までの若手教員を対象とした教科指導専門員による指導等を通して、授業改善・指導方法の工夫に努めた。区の学力調査では、区の平均正答率が6年生の国語が4%、算数が3%、2年生の算数が2%下回ったが、そのほかは区の平均を上回り、一定の成果は出ている。国語は文章問題で登場人物の心情や、文に即した読み取りが課題の一つであるため、授業の中で学習課題の中心となる内容を考えさせる活動を重視したり、友だち同士で自分の考えを交流させたりする場を意図的に設定していく。算数においても、文章題を読み取り立式することに課題が見られる。四則計算の着実な定着はもとより、文意に沿った立式ができるようにスキルアップタイムや放課後補充教室も活用しながら定着を図っていく。

本校の特色の一つである農業体験活動を通して、実際に体験しながら生き物を大切にしたり、環境について考えたり、地域の方と交流したりすることで豊かな心の育成を継続的に行ってきた。次年度も保護者や地域・学校運営協議会、開かれた学校づくり協議会と連携し、外部の方々の協力を得て、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を重点に全教職員の共通理解のもとさらに充実した教育活動を推進していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、人権尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指すことが生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな大人になることに繋がると考え、教育活動を推進してまいりました。

学力向上については、一定の成果を上げることができ、生活面においても問題行動の未然防止と早期発見、早期対応に努めてきました。今年度も、保護者や地域の皆様から多大なるご理解とご協力をいただきながら学校運営を進めることができました。本当にありがとうございました。年末に皆様からいただきました学校評価やご意見を生かして、来年度も子供たちが生き生きと学校生活を送り、保護者や地域の皆様から信頼される学校となるよう教職員一丸となって努めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の皆様には多大なご理解とご協力をいただきました。今年度の教育活動の内容や様々な行動制限について、学校評価に挙げていただいた以外にも各ご家庭様々のご意見があると思います。500名を超える子供たちを預かる学校では、都や区の方針や区立小学校長会の意向等を考え合わせ、本校の子供たちの安全と安心を第一に考えて実施の方法を含めて判断してきました。来年度も、その時々状況に合わせて、子供たちの安全・安心を第一に考え臨機応変に教育活動を進めてまいります。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。